

(Japanese Academy of Learning Disabilities)



# 日本LD学会会報

第47号

事務局：栃木県カウンセリングセンター内

〒320-0851 宇都宮市鶴田町687-9 ムギショウビル2F TEL. 028-649-0090 FAX. 649-1213

URL. <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jald/>

## 前略 カーク先生

明星大学

小貫 悟

前略 カーク先生

はじめまして。私は現在、日本でLDの研究・臨床を行っているものです。今日は、あなたに伝えたいことと、伺いたいことがあってお便りします。

あなたがLDという概念を1963年に提唱されてから、もうなんと40年も経ちました。米国では教育概念としてのLDという言葉はすっかり社会に溶け込んでいるようですね。日本では15年位前からようやく整備され始めました。そして本年度に入って「特別支援教育」というシステム構築が始まろうとしており、その中にLDは位置づけられていくようです。本当にすごいことです。ついていけないくらいのスピードです。あなたが提唱したLDという概念が子どもを本当に救う真実の言葉であったからでしょう。有用な言葉であったからでしょう。LDの問題に一生懸命、取り組み、努力してきた親、教師、臨床家、研究者は皆とても喜んでいます。

しかし、私の中には喜びとともに一抹の不安があることも否めません。今、日本で使っている

LDという概念は本当にあなたの思い描いたものを汲み取ったものになっているのでしょうか。認知障害、微細脳損傷、読み障害…様々に分類された子どもたち。「ちょっと待って、子どもを分類していてもしょうがないよ。その子たちが教育サービスを受ける権利を前提にした言葉に統一しようよ」というあなたの呼びかけ、あなたの提唱は、対応法・指導法・援助法をまず整備して用語を使おうということだったと私なりに捉えています。日本で進むLD・ADHD・HFAという分類に十分に答える対応法・指導法が、今、用意され確保されているのでしょうか。急速に整備されつつある用語とシステムの中で、子どもに関わる方法論だけが取り残されている気がしています。順番が逆になったようです。ただ、先生、これは日本の事情で、しょうがないことでもあるのです。今、私たちに求められているのは、この矛盾から目をそむけないで、指導法開発とさらなる勉強をしていくことだと思っております。見守っててください。

早々